

# 国道7号、103号線バイパス

## 2つのルートが正式に決定

### 市道東バイパスも計画

都市計画街路として建設予定の国道七号線「大館西バイパス」と国道一〇三号線「大館南バイパス」のルートが正式に決定しました。この建設計画は、今年五月に市の都市計画審議会で承認され、八月には県の地方審議会でも原案可決、そして、このほど建設大臣の認可を得たことで決定したもので、今後は、建設省の事業認可を待って、用地買収などの作業に着手することになっています。

国道七号線と一〇三号線は、現在、市の中心部を通過しており、市内における車の渋滞が年々激しくなってきたことから、バイパスを建設することになり、国道については、市中心部の西側と南側にそれぞれ建設、さらに、これらを南北で結ぶべく市道東バイパスの建設計画も進められています。



と県が施工担当する「南バイパス」のルートがこのほど正式に決定されたものです。国道七号線大館西バイパスは立花地区を起点に、片山地区の東北製パン付近までを既存の道路を四車線に拡幅し、そこから長木川方向にそれ、沼館のし尿処理場付近を通り、松木・板石石間を抜けて、釈迦内の農協支所付近の現国道へ結ぶ、延長六・五キロのルートになっています。また、国道一〇三号線大館南

今月は  
国民健康保険税の  
第三期の納期です  
— お忘れなく —

### 東台地区に住居表示を実施しました

はん雑でわかりにくかった東台地区周辺に十一月一日から住居表示を実施しました。この住居表示は、従来の「東台〇〇番地」の区域が「東台(ひがしだい)一丁目」から「東台七丁目」に「字金坂」が「字金坂後」が「字東台」の一部の区域が「赤館町」(あかたてちょう)になりました。



この住居表示の実施により、行政や郵便配達業務に便が生まれ、家を探しやすくなり、地区の方々からたいへん喜ばれています。これからは、年賀状を差し出すシール住所になりますが、新しい住所で出すようにしてください。住居表示について不明な点がありましたら市民課記録係にお尋ねください。

一連の文化、産業行事を終えることができ、また、それぞれの主催、共催団体のご苦労とご参加いただいた市民に深く感謝いたしますと共に謙虚に反省し合い、一層の前進を誓いたいと存じます。

生活の中の文化  
「文化の時代」「文化行政」など文化の提唱がよく聞かれ、改めて「文化とは……」とお考えの方も多々見られます。

ここで文化とは何かを申し上げるつもりはありませんが一言で言えば「進歩、発展を求めて先人が長い歳月にわたって積み重ねて来たもの」とも言えるのではないのでしょうか。……とすれば、何もむずかしく考えないで、伝えられ、生活の中につくり、生活を通じて新しい文化をつくり、それを伝えて行かなければならぬと存じます。とか私たちがこれまで、高度経済成長こそ全てであるという、貧困からの解放に身も心も奪われ「人間性文化」を忘れていた嫌いがあり、またこの忘れられた文化をとり戻してこそ均衡のとれた、生活と社会を創造できるのではないのでしょうか。

困難に立ち向おう  
相変らずの不況に冷害も重なり、市をとりまく経済環境は更に厳しさを増しています。関係各機関、団体共々に精力的な陳情、請願活動を重ねて参りまして、お陰様で目標を果すことが出来ました。それにしても、異常事態ですから皆さんが力を合せなければなりません。そうではなく、他人まかせ、行政頼みだけでは事の解決にはならないと思えます。それは、長期低利の融資や補助金、税の免除はありますが所得の不足分を完全に補うものではないからです。その所得の不足分を補う仕事も行いますが、それでも不十分だからです。



No. 23

中山健治郎

### 国民保険 高額療養費 について

国民の被保険者で、同じ人が同一の病院、診療所で、自己負担分(医療費の三割)として一カ月に三万九千円以上支払った場合、その三万九千円を超えた額が国民保険から後で支給されます。

具体的には次のとおりです。

- ▽自己負担額三万九千円の中には、差額ベッド代や歯科の差額診療など、保険診療外のものは含まれません。
- ▽毎月一日から月末までの受診分について一カ月として計算します。
- ▽二つ以上の病院へ同時にかかっている場合合算することはできません。

市役所厚生課国民保険係へお問い合わせください。

49-13111 内線243



「本を閉じてから、この小説に漂うネガティブティが私の心をとらえ続け、それはまるで私につきまとっているようでもある……」大館風鳴

### 第十回 市民読書感想文 学生の部 第一席 長谷部登志子さん(16)

高校二年長谷部登志子さん(有浦二丁目)の感想文が、第十一回市民読書感想文の学生の部でみごと第一席に輝きました。登志子さんは森鷗外の「雁」の感想文を書いて出したもので、高校二年でよくこれほどの感想を得たものと思うほど内容を消化している。一般の部に比べてひげをとらないほどの力作と審査委員の高い評価を得ました。好きな作家は芥川龍之介と森鷗外。「作品はすべて読みました」というだけあって課